

中学校における授業実践事例 2

第3学年 家庭科
「消費者の権利と責任について考えよう」

1 学校名・職氏名

防府市立牟礼中学校 教諭 大田 香

2 生徒

3学年 26名

3 学習指導案

(1) 題材名

消費者の権利と責任について考えよう

(2) 題材の目標

○自分や家族の消費行動に関心をもち、「消費者の8つの権利と5つの責任」の内容について理解することができる。

○適切な消費行動を具体的に考えることを通して、権利を主張し責任を果たすということを理解し、実生活においても意識していこうとする態度を養う。

(3) 題材設定の意図

① 生徒観

生徒たちは、普段、店で買い物をしたり、インターネットを利用して欲しいものを購入したりするなど、様々な方法で物資やサービスを手に入れており、消費行動が大変身近になっている。しかし、消費行動そのものを、まだ大人の世界のことととらえる傾向があり、商品を選択する際、個人的な視点のみで選択するなど、自分の行動が社会に及ぼす影響まではほとんど考えていない。

自分たちが消費者の一人として、商品の選び方や扱い方を意識することで、よりよい社会を築いていくきっかけとなることに気付かせたい。

② 教材観

これまで様々な消費者問題が発生し、消費者は一般的に弱い立場とされていた。しかし、IT化や国際化の進展などの消費者を取り巻く環境が著しく変化したことから、消費者政策の基本的な考え方も、それまでの消費者を守るための消費者保護基本法から、消費者の権利を尊重し、自立を支援する消費者基本法へと見直されており、生徒たちも、今後消費者として自覚ある消費行動を行っていく必要がある。そのためにも消費者の「8つの権利と5つの責任」について理解し、よりよい社会を築いていくためには、どのような消費行動の意思決定をすればよいかを考える必要がある。

③ 指導観

そこで、実際の消費生活にかかわりをもたせていけるように、買い物シミュレーションを行ったり、購入後不具合が起こった商品の扱い方などについてパネルを

使用して話し合いを行ったりするなど、より具体的な内容を提示することで生徒たちの意識を高めさせる。「商品選択」の視点と、「消費者の声」の視点から、私たち消費者が基本的に持っている権利の適切な主張と責任の果たし方について理解を深め、社会の一員として今後の自分の消費行動についても考えさせたい。

(4) 題材の評価規準

	関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の適切な消費行動について具体的に考えようとしている。 ・買い物シミュレーションや班活動に、意欲的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として、自分のできそうな消費行動を考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任について理解している。

(5) 学習計画（全2時間）

時間	学習内容・学習活動	評価				評価方法
		関	工	技	知	
1	消費者の権利と責任① ～商品選択の視点から考える～ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の買い物について振り返る。 ・買い物シミュレーションをする。 ・消費者の権利と責任について知る①。 	○			○	ワークシート 観察
2	消費者の権利と責任②（本時） ～消費者の声の視点から考える～ <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の声で改良、発展した商品について知る。 ・購入後、不具合があった商品を例に、望ましい消費行動についてパネルを使って班活動を行う。 ・社会の一員として、これからできそうな消費行動を考える。 ・消費者の権利と責任について知る②。 	○	○		○	観察 ワークシート



(6) 本事案 2 / 2 (本時)「消費者の権利と責任を知らう②」

① 主眼

- 「消費者の声」を視点に「消費者の権利と責任」を理解する
- 消費者の責任を果たすために、自分が実践できることを考えることができる

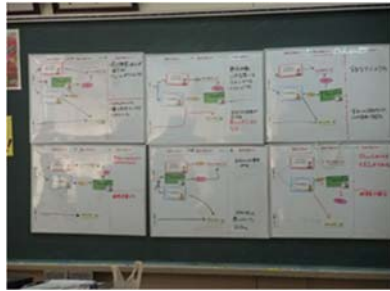
② 準備物

パソコン、プロジェクター、ワークシート、商品(数種類)、パネル、大判用紙、ふせん。

学習内容学習活動	生徒の反応	教師の手立て
<p>1 本時の目標の設定 「消費者の権利と責任」について理解する。</p>	<p>① 前時の商品選択の学習を振り返る。</p>	<p>○「商品の選択」という視点から「消費者の権利と責任」について学習したことを確認させる。</p>
<p>改良された商品の背景には、消費者のどのような要望や行動があったかを考えよう</p>		
<p>2 こんにやくゼリーについて知る。 ・表示の意味 ・販売中止から販売再開まで</p> <p>3 消費者の声から改良された商品を知る。 ・牛乳、シャンプーなど。</p>	<p>② おいしい、歯ごたえがある、なぜこんな表示がついているのだろう。</p> <p>③ それぞれの商品についての工夫点などを考える。</p>	<p>○ 注意喚起の表示から、その理由を考えさせ、商品が販売中止から販売再開まで消費者の声が影響していることを知らせる。</p> <p>○ 消費者の声で改良された商品を紹介する。</p> 
<p>消費者としての責任を果たすための行動を考えよう</p>		
<p>4 新品のテントが壊れてけがをしたときの行動について考える。</p>	<p>④ 〈行動する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店で交換してもらおう。 ・直接製造会社に問い合わせる。 ・消費生活センターに相談する。 <p>〈行動しない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさい。 ・自分の取り扱い方が間違っていたかも。… 	<p>○ 〈行動する〉と〈行動しない〉について、今までの経験や想像から自分だったらどのような行動をとるか具体的に考えさせる。</p> 

5 行動すること（消費者の声をあげること）が社会に影響を与えることについて理解する。（班）

⑤ パネルを完成させる。



6 消費者として適切な消費行動について考える。

⑥・商品に関心をもつ。
・意見を伝える。
・表示を見る。

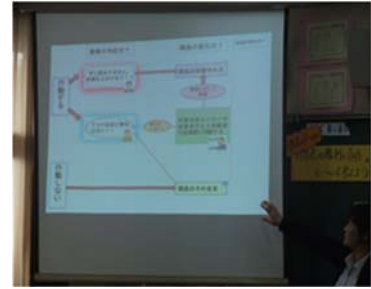
7 消費者として実践できることを考える。

⑦ 今日から実践できることを3つ考える。

8 本時のまとめ・振り返り

⑧ 学習の振り返りをする。

○ パネルを当てはめ図式化していくことで、行動すること（消費者が声をあげること）が消費者の責任として大切であると同時に、社会にもよい影響を与えることを理解させる。



○ 商品の欠陥によるけがと消費者の誤使用や不注意によるけががあることを確認させる。



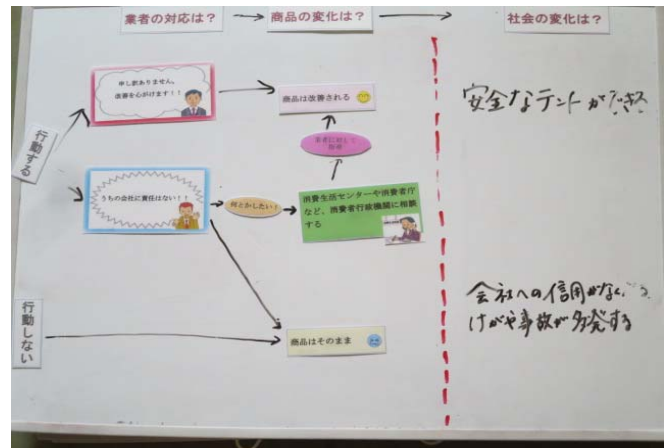
○ 自立した消費者として、責任を果たすための適切な消費行動について考えさせる。

○ 前時の学習内容も含め、消費者の8つの権利と5つの責任をもとに、実際に自分ができる身近なことを考えさせる。



○ ワークシートにまとめさせる。

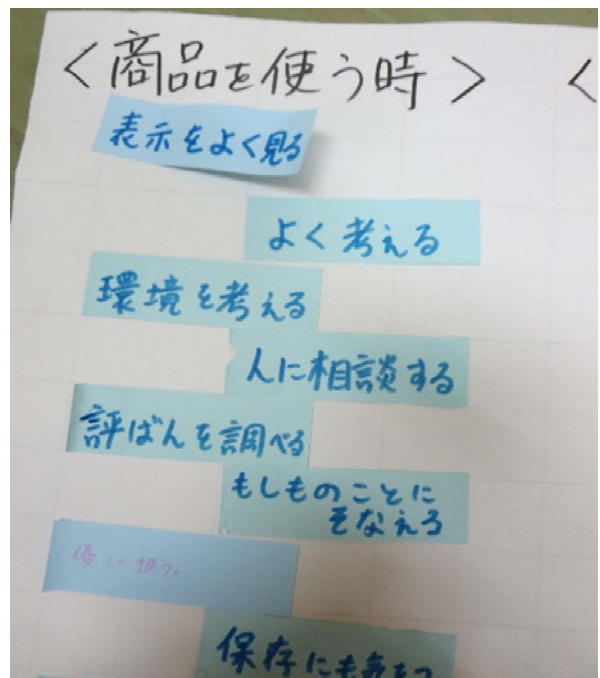
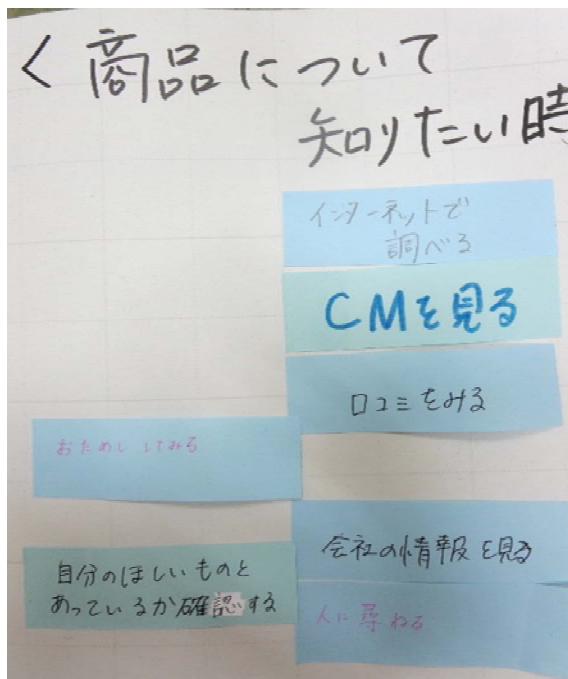
《資料》
【パネル活動】



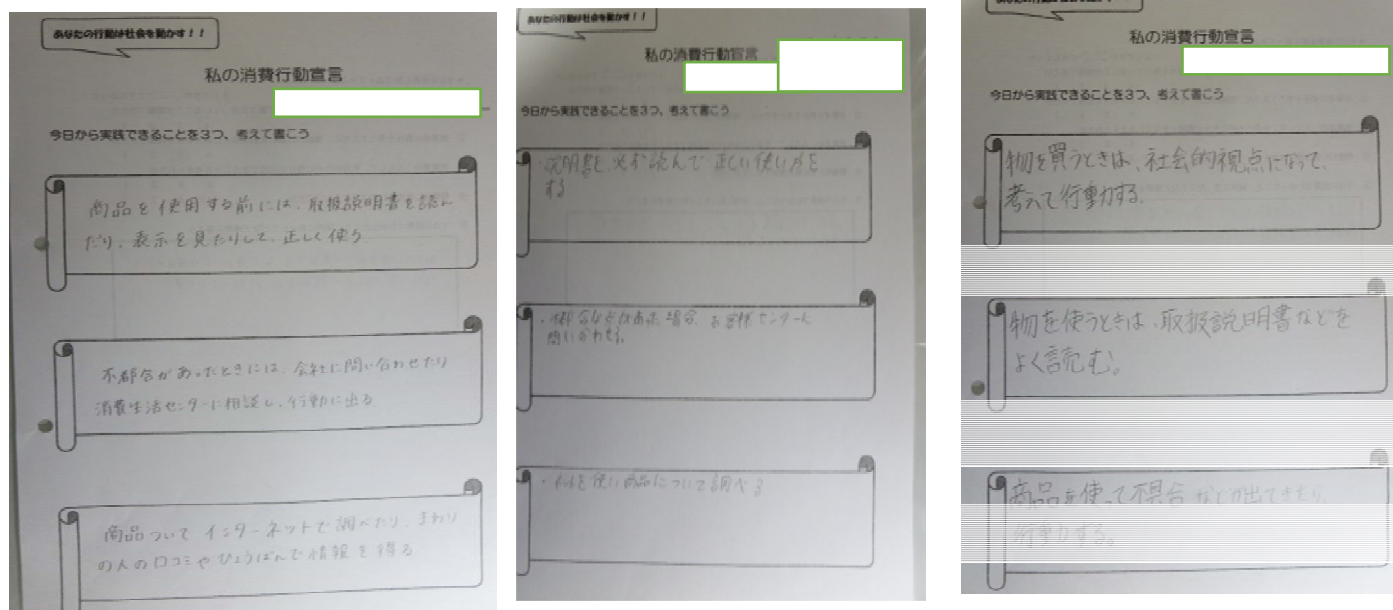
【パワーポイント】



【ふせん作業】



【ワークシート】



4 指導上の工夫

生徒たちは日常的に消費生活を送っているが、個人的な視点だけで商品を購入したりサービスを受けたりするだけで、自分の消費行動が社会にどのような影響を与えるかということまでは、ほとんど関心がない。このような実態から、消費者として自分の行動に責任を持ち、「消費者市民」として社会に積極的に関わっていこうとする意識を持たせることが必要と考えた。

そこで、

- 身近な食品や、スーパーの取組などを取り上げて、消費者の意見から改良されたり、消費者の要望から生まれたりした商品などを知らせる。
- 購入後の商品について、不具合が起こったり、ケガをしたりしたときの行動について考える。
- 行動することと、行動しないことで、今後のその商品、またその商品を作っている会社などを含め、社会に大きな影響を与えるかもしれないということを、パネルを使って起こり得る影響について考える。
- パネル作業では、行動することで会社はどのような対応をするか、またその商品はどのように変化するかを、班で話し合いながら流れを考え、望ましい消費行動について考える。

など、身近な商品を紹介したり、今後自分が行動できそうな内容を具体的にイメージしたりできるようにした。また映像や活動を通して、興味関心を高めるようにした。

5 成果と課題

(1) 成果

「商品選択」と「消費者の声」という視点から、権利と責任を理解する内容に焦点を絞り、具体的に体験活動を設定したことで、消費者の権利と責任について理解が深まった。

買い物シミュレーションを用いて商品選択の視点から考える内容では、「フェアトレード」や「ユニバーサルデザイン」などの言葉を知り、個人的視点で商品を選ぶだけでなく、周りの人たちや社会、そして世界問題のことまで考えた、社会的視点に立った商品選択の大切さを感じることができた。

また、消費者の声から考える内容では、消費者の意見で商品が改良されたり、自分の行動が今後の社会に影響を及ぼすきっかけとなるかもしれないことが、パネル作業から理解できたり、行動することの大切さを意識することができた。

いずれも、具体的な商品を提示して体験的な学習を行ったことが、生徒の興味関心を高め積極的な意見交換につながり、主体的に行動する消費者としての意識が高まったと考える。

以下、生徒の感想

今までも消費者の声で変わった商品があり、ちゃんと商品に反映されていることがわかった。しっかりと自分の意見を持つことが大切だと思った。

企業に頼りっぱなしではなく、消費者側もより気をつけて商品を見なければならぬと思いました。自分自身が行動することによって、これからの未来にもつながっていると思うと、より行動することの大切さが分かりました。

消費者の声で商品や会社、社会がよりよいものになっていくのなら、きちんと行動したいなと思いました。

行動することが、自分のためだけでなく人や社会のためになるのなら、積極的に行動し、一人の消費者として、今まで学んできたことをしっかり考えて生活していきたい。

(2) 課題

具体的な事例を提示することで、より生徒の身近な課題として考えさせたかったが、「社会に影響を与える・・・」といった内容は、中学生としてはどこかまだ自分のこととしてイメージすることが難しく、自分の意見を書くときは時間のかかる生徒もいた。

授業時間数の制限もあるが、もっと生徒が今の自分の行動と向き合い、消費者の権利と責任を深く理解した上で、今後の自分がとるべき行動を自覚するには、今回の一時間では、あまりにも考える内容が多すぎたと感じる。

例えばパネル作業に重点を置き、行動することと行動しないことで社会に与える影響について、各班の考えた内容をディスカッションしたりすることで内容が深まり、今後自分がとるべき行動について、より納得した意見が期待される。それによって消費者としての責任の自覚も生まれるであろう。

その時間の骨子となる部分をもう少し絞り、より生徒の目線に立った丁寧な指導を再吟味していきたい。そして、学習したことが実生活の中で生かされるような、学びの場を作っていきたいと思う。

6 授業検討会での主な意見

(1) 授業実施前に学習指導案の検討を行った際の主な意見

- 家庭科の授業なので、なにか生徒に身近な物で消費者の声で変わった物を取り上げるとよい。こんにやくゼリーはとっつきやすい。また、取り上げる商品の切り口を明確にした方がよい。環境に配慮して改善したのか、安全に配慮して改善したのかなど。
- 買い物自体が、その商品に対する投票行動になるので、まず、買い物でできることを考えた方がよい。
- 消費者の権利と責任を併せて学んでほしい。SNSなどで簡単に商品の情報を発信できるが、間違った問題を発信すると社会問題になりかねない。
- こんにやくゼリーを上手に扱って、生徒が考えやすいフレームを用意し、最終的に権利と責任につなげて、具体的に消費者としてどのように行動するのか考えさせればよい。

(2) 授業実施後の主な意見

- こんにやくゼリーの表示を拡大するなどわかりやすかった。消費者の権利の裏には事故とかが背景にあるということが伝わっていた。
- パネル活動について1つの班を取り上げて、深めてもよかった。大事なのは、パネルを作って行動すること。不良品があったら、「売ってしまった」「他の人にあげた」といった自己完結の行動ではなく、社会に発信することが大事。
- テントが壊れたということを取り上げていたが、もう少し、生徒に身近な商品でもよかった。
- 写真や動画は、リアリティがあってよかった。ただ、自分で作るとなると、リアル感を出すことが難しい。

7 消費者教育アドバイザーの総評

(1) 消費者教育アドバイザー

(公財)消費者教育支援センター 総括主任研究員 中川 壮一

(2) 総評

① 「商品選択」と「消費者の声」の視点から

本実践は、「消費者の権利と責任」について学ぶ2時間の授業で、消費者としての責任を果たすための行動を考えるための工夫が盛り込まれた家庭科での意欲的な実践である。1時間目に「商品選択」の視点から自分や家族の消費行動について考え、2時間目に「消費者の声」という視点から消費者としての責任や行動について考える内容構成となっており、2時間目の本時で、「改良された商品の背景に、消費者のどのような要望や行動があったのか」について考察し、消費者の責任を果たすための行動を考えることが主な学習課題となっている。

消費生活と環境の単元で「消費者の権利と責任」に2時間を費やすと考えると配分が多いように思われるが、1時間目は商品の購入・選択をする際の意思決定を中心に扱い、本実践でも生徒に身近な商品を取り上げた買い物シミュレーションを取り入れている。その際、商品の品質表示や認証マーク、使用上の注意などの情報を取り上げ、2時間目の学習にも活かされている。1時間目が商品購入時の課題、2時間目が商品を購入した後のトラブルや返品、商品利用や廃棄も含めた適切な消費

行動の課題として整理することも可能であろう。前者は、消費者として普段の買い物でできること（買い物がより良い世界に変える＝Shopping for a Better World）であり、後者は、企業のお客さま相談室や消費生活センターなどに相談したり、リサイクル製品の回収や自治体の分別回収に協力するといった買い物以外での行動といえる。

「消費者の権利と責任」は、米国のケネディ大統領が提唱した消費者の4つの権利や、国際消費者機構（CI）が提唱した「消費者の8つの権利と5つの責任」が教科書にも取り上げられているが、権利や責任の名称を覚えるだけになりやすい。そのため、学習指導要領（解説）では、「消費者の権利と責任については、実際の消費生活とかかわらせて具体的に考えさせるとともに、消費者基本法の趣旨を理解できるようにする。例えば、中学生の消費行動とかかわらせて、商品を購入することは、選ぶ権利であるとともに責任を伴うことなどについても理解できるようにする。」とされており、本実践でも具体的な商品表示の例や製品事故の例を取り上げて、具体的な消費行動、権利と責任と結びつけて考えられるように工夫が図られていた。

② アクティブラーニング—体験的な活動による学習の成果と課題

本実践では、中学生が自分や家族の実際の行動と結びつけて考えるための指導上の工夫として、1)身近な商品の実物・拡大表示の提示、2)班活動でのパネルや付箋を活用した検討、3)視聴覚機器(事故の再現映像)の効果的な活用、4)ワークシートによる学習のまとめと振り返り、が取り入れられている。

アクティブラーニングとして体験的な活動や主体的な学びを取り入れるには、個々の生徒がどのように話し合いに関わったか、あるいは意見の合意を図ろうとしていたかなどの学びの過程を記録・評価していくツールやワークシートも必要となる。その点、実践校ではワークシートのほかに、パネルを使ったグループ討議も普段から活用して慣れている様子で、消費者の声・行動が社会に及ぼす影響について考える(可視化する)ツールも上手く使いながら話し合いを進めていた。授業後の検討会では、班で話し合った内容をクラス全体でもう少し議論を深める時間を確保した方が良かったのではないかといった意見もあった。限られた授業時間で何を優先して取り上げ時間を割くか悩ましいところではあるが、実際に消費者の声・相談を受けている立場の人の話を聴いたり、生徒自身が取材や役割演技(ロールプレイング)をすることで課題に迫る方法もあるであろう。

今回扱った「消費者の声」は、商品・サービスの拡充のみならず、応援消費の輪を広げるなどの波及効果が生まれることもある。一方で、中学生でも利用できるインターネット上のサービス、SNS によって良い声(いいね!)も悪い声も投稿・拡散できてしまう時代である。より良い商品・企業を育てていくのは、消費者の権利でもあり責任でもあることを自覚し、情報の見極めとその影響について考えていけるよう、関連する教科・情報モラル教育との関連についても議論・検討できるとよいと思われる。